

1 はじめに

本校は10の委員会があり、熱心に常時活動を行っている。以前のような集会活動はまだ行えないことが多いが、制限がある中でもアイデアを出し合い、工夫をしながら活動に取り組んでいる。その中の一部を報告する。

2 実践事例

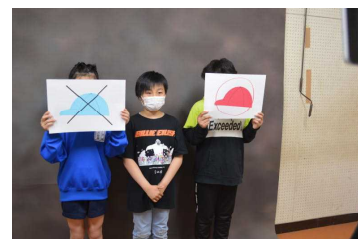
(1) あおぞら班活動（縦割り班活動）

「あおぞら班」という名称で、居住している地域ごとに1年生から6年生までを14グループに分けた縦割り班活動がある。隔月の最終水曜日のロング昼休みに、6年生の班長・副班長が中心となり、「鬼ごっこ」や「ドッジボール」など、どの学年でも楽しめる遊びをしている。児童たちは、普段と異なる異学年メンバーと遊ぶことを楽しみにしている。また、6年生は、下級生の面倒をよく見ており、課された責任を果たそうと意欲的に取り組んでいる。



(2) 1年生を迎える会（運営委員会）

「クイズで1年生に楽しんでもらいたい」と児童たちが企画した。感染回避のために直前でオンラインに変更となり、運営委員会は放送室から、その他の児童は各教室でチームズでの参加となった。オンラインでの○×クイズは、みんなに楽しんでもらえるか不安だったが、各教室で盛り上がっていた様子を聞いた運営委員会の児童からは、「準備が大変だったが、1年生が楽しんでもくれたので、やってよかった」「また、楽しい企画を考えて、楽しい学校にしたい」などの感想があがった。



(3) さわやかマナーアップ（あいさつ運動）

あいさつ運動は、月曜日以外の毎朝、昇降口で呼びかけを行っている。昇降口で呼びかけた後、それぞれの担当のクラスへ行き、「おはようございます」と呼びかけている。その他に道徳部と連携し年間計画のもと、「さわやかマナーアップ」の取り組みのひとつとして、クラス単位や学級担任以外の教員、保護者も参加して、あいさつ運動を実施している。



3 成果と課題

- ・異年齢集団の活動は、児童同士の交流の中で低学年を思いやる行動や言動をみることができ、他を思いやる心を育てるよい機会となった。6年生にとっては、最高学年としての自覚を深めるよい体験となった。
- ・児童の思いを大切に特色ある委員会活動を計画・実施していくかについて、今後も状況に応じて検討していく必要がある。